



その5

# 宜野湾バイパス全線開通



諸元

道路規格  
区間 第4種第1級  
自：宜野湾市伊佐  
至：浦添市牧港

延長  
設計速度  
車線数 4.5km(今回供用区間1.2km)  
V = 60km/h  
4車線

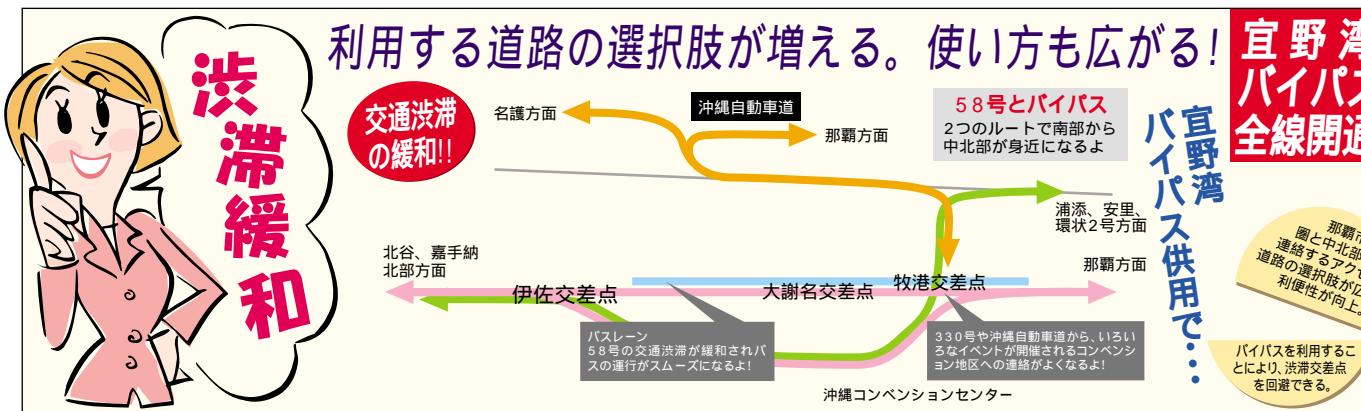
平面図



**4 全線供用による効果**

今回の宜野湾バイパスの全線供用と関連事業の牧港立体(平成10年供用済)で南北方向の通過交通や一般国道330号に向かう交通が宜野湾バイパスを利用するにより、一般国道58号の交通量の低減による渋滞緩和や、また大謝名交差点・伊佐交差点等の渋滞解消につながることが期待され、南北交通の通過時間の減少が図られます。

また、コンベンションアリアへの進入が那覇側からや北部側からもスムーズにできるようになり観光アクセスの向上、イベント時に集中する交通の円滑な誘導による周辺道路への負荷の軽減や、沿線の地域開発の促進なども期待されています。



沖縄総合事務局南部国道事務所の主催による開通式が三月二十一日の午前十一時から宜野湾市真志喜の特設会場において行われました。主催者である南部国道事務所・富岡所長の式辞に始まり、白保沖縄開発の渋滞緩和に寄与するものと考えられます。

**3 開通式**

また、将来的には沖縄本島の西海岸地域の南北軸の強化を目的として計画されている延長五十キロメートルの沖縄西海岸道路の一部として沿道地域の開発促進、国道五八号の渋滞緩和に寄与するものと考えられます。

終点部 牧港交差点付近)の暫定区間にについて平成十一年度中の完成を予定しています。

一期埋め立てに合わせて平成十年から着手し事業を進めてきましたが、本年七月に開催される九州・沖縄サミット開催時の一般国道五八号の交通緩和を図るために整備を急ぎ、今回宜野湾バイパス全線が供用されることになりました。

**1 宜野湾バイパスについて**

國頭村から那覇市までの沖縄本島西海岸の主要地を結ぶ県内延長二三キロメートルの般国道五八号のうち、宜野湾バイパスは宜野湾市において交通混雑の著しい伊佐・大謝名交差点などの交通混雑緩和を目的に、宜野湾市伊佐から浦添市牧港に至る四・五キロメートルのバイパスとして計画されました。

**2 事業実施**

宜野湾バイパスは昭和六十年度に事業化し、昭和六十一年度に都市計画決定、同年度用地買収及び工事の着手を行い、昭和六十一年十月の海邦国体に合わせて固体関連施設にかかる区間を一部暫定供用いたしました。

その後、「ハベン・シンドニアをはじめとする宜野湾市における海岸部の開発の支援を行うため順次供用し、平成六年度までに三・三キロメートルの供用を行っており、真志喜から牧港間の一・二キロメートルを残すのみとなりました。